

# 佐藤内閣打倒！

## 70年安保条約粉砕！

### 沖繩米軍政打倒！

#### 10/21 国際反戦闘争を闘え！！

#### 67/10/21 共産主義者同盟関西地方委員会

##### I 10/8 羽田斗争とブルジョアジーの恐怖

① 極東の一角、日本の国際空港羽田で斗われた「佐藤訪米阻止斗争」は、たしかに少数戦闘的な労働者と学生によって斗われた。それは、日本の幾百万、幾千万の労働者と、一五〇万の影響を持つ、自称「共産党」と、議会で第二政党の地位を占める社会党、そして、世界にも誇る巨大な組織された労働者たちを擁する、日本の反体制運動、日本の階級斗争の規模からみれば、表面的には、確かに、孤立しているかのように思われたにちがいない。確かに、日本共産党はその時、多摩川で「赤旗まつり」をしていなし、社会党、総評は、その数日前に中央集會を終え、斗いは終われりという状況だった。然し、この三〇〇〇名の羽田斗争は、日本のブルジョアジーとその権力ばかりではなく、全世界の支配者階級をして、「安保以来の最悪の暴動」と言わしめるにあたいする、政治的衝激力を示したのである。

② ワシントンのタカ派は、60年安保岸退陣の悪夢をおびえ、「佐藤内閣の安定度に疑問を示す」と同時に、ハト派の反響に愛顧を隠しきれなかった。ワシントンは、70年安保には、「佐藤首相も難を逃げることはできない」だろうとはっきり言っていた。西独とフランスは、困惑の色をかくせなかった。ソ連はブラウダにその詳細を報導し、消極的支持を表明した。

アメリカにおいては、ジョンソンと軍部、産業の結合による「ベトナム戦争拡大」に対するハト派の反対。ジョンソンの増税政策に対する反対をめぐり上院・下院の激突、実に保護主義の拾頭との対立が、この小さいが鋭い斗いによって、「アフター・ベトナム」に暗雲をあげているのである。

全世界の支配者ばかりではなく、「沖縄返還」をテコに世論操作により70年安保を乗り切ろうとした日本のブルジョアジーと権力は、この羽田斗争により、一きよに「70年安保」を正面にすえられ、ろりばいしたのである。

##### II 全世界で10/21反戦斗争は闘われている

羽田斗争は、一方で、このようにブルジョア共を動揺させただけではなく、他方で、全世界の共産主義者、左派、プロレタリアートを勇気づけたのである。ベトナムは、ただちに、この英雄的斗いに支持を表明した。中国は、「人民日報」の一面を、この記事でうめ、弾固として支持し、無条件にこの斗いを擁護した。そして連日、北京放送は、支持を宣伝している。「三大

陸人民連帯機構」は、ただちに、支持と、擁護の活動に入っている。

アメリカの反戦運動は、この日本の斗いは、本場に「立派だ」と言っている。そして彼等は10/16から全米各地で始めている、「ベトナム反戦と徴兵反対の集會とデモ」で、「徴兵センター」の封鎖、すわり込み、「徴兵カード」突返し、「徴兵者入場阻止」をはじめであり、すでに一〇〇〇名が徴兵を拒否した。

西独の自由大学、SDSをはじめとする諸団体から、日本に、支持と連帯のあいさつが来た。彼らも又官権に一人の学生を射殺されているのである。サイゴンに学生運動は、羽田斗争を支持し、これにのみならず必要があることを決定した。その他多くの国々で、羽田斗争は無条件に支持されている。そして、10/21を、これにつづく今後の斗いは、はっきりと、各国の人民はお互いにはげまし、支持し合って闘うようになっているのである。

④ 日本においても、次の諸政党、団体が、羽田斗争を無条件に支持し、10/21、11/12に向けて活動している。共産主義者同盟、社学同、革命的共産主義者同盟全国委員会革マル派、同中核派、社青同解放派、第4インター、青年インター、共産主義労働者党、解放戦線（平和と独立）、日本共産党（左派）、民主青年同盟（左派）、日中友好協会（正統派）、日本国際貿易促進協会、A人民連帯日本委員会、等々である。又インテリゲンチヤも思想の科学系、岩波グループ、人文研グループ等々である。地域、職場反戦青年委員会、労働運動研究会、社会主義研究会、をはじめとする、総評内戦闘の労働者が支持し、闘っているのである。

- ⑤ 10/8と、10/21斗争の状況は、労働者の内ではどういふ状況になっているか。東京では③多摩地区労を中心にして砂川で一〇、〇〇〇人集會、④中央集會（新宿）二〇、〇〇〇人、神奈川で三〇、〇〇〇人、大阪では、④屋の部は公労協、⑤夜の部は民間、京都では、④朝6時電通、⑤屋、公労協、⑥夜は民間が集會を開くことになっている。又、尼地区労と反戦は21日を26日にし、共同主催している。勤労大坂地本は、21日24時間ストを延期した。国労は、「米軍需品輸送増強」に抗議し、20日東京を中心にし、さらに全国にひろげ、11月下旬、プロレタリア別拠点の順法斗争を闘うことになっている。
- ⑥ 沖縄では、10/21から11/2まで、行進11/2 全県民一日休業日、11/6から11日まで一〇〇人がハンスト、その他orgという闘いを組んでいる。

##### III 更に斗いを発展させよ！

① 10/21 国際反戦斗争の意義は、まず何より

も全世界の共産主義者、左派、プロレタリアートが共同して支配階級と闘うことである。日本の左派は次の事を実行するべきだ。

10/8 羽田斗争は学生、戦闘的労働者、社会主義左派の機動戦であった。この機動戦は、組織労働者の巨大な陣地戦と結びつきつつある。本日の国労労働者の軍事物資輸送拒否闘争は、世界のすみずみにすでに知られている。港灣労働者のストは、港に大きな波紋を起している。ナバーム弾、戦車、毒ガス、銃弾を生産している機械、金属、化学労働者諸君！諸君の任務をはたすべき時が来ている。更にブルジョアジーの系統的なデマ、宣伝に對し、知識人及びあらゆる機関は、全人民をわれわれの思想で満たさねばならない。

② 日本の帝國主義者どもは、「沖縄、小笠原問題」を中心にして、国民の願望を利用し、70年安保条約を労働者の名を借りて貫徹しようとした。10/21斗争は、支配者の作謀に乗せられる事なく、70年安保条約粉砕の布石を作り上げねばならない。

③ 更に権力は刑法拡大執行、国会運営規制、国会デモをはじめとする都条例、公安条例の法制化、破防法等々の弾圧体制を組んで来ている。これは、「70年安保」「小選区制」「憲法改悪」のためのものである。

④ 更に、10/21は、これらの弾圧に反対し、佐藤首相のベトナム政策に対する政治斗争（反帝、反戦斗争）が、明らかに、公労協、民間をはじめとする労働者の合理化斗争、職場斗争とはっきりと結びついていっているからである。我々は斗いを、更に発展させなければならぬ。

##### 我々の当面のスローガン

- 一 佐藤内閣打倒！
- 一 政治的自由の獲得！
- 一 安保条約即時破棄！
- 一 佐藤訪米阻止！
- 一 ベトナム侵略阻止！
- 一 兵器・物資の生産・輸送拒否！
- 一 米軍政打倒！
- 一 沖縄軍事基地撤廃！
- 一 講和条約第三条破棄！
- 一 小選挙制粉砕！
- 一 国会周辺デモ規制粉砕！
- 一 防衛庁の省界格阻止！
- 一 原潜、原空母入港阻止！
- 一 破防法破棄！
- 一 大管法阻止！